

自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）養成事業

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、12月7日（月）～12月10日（木）の3泊4日の日程で、教育事業「自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）養成事業」を開催しました。この事業は、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動を推進する担い手を養成するものです。参加者は、高校教諭、国公立青少年教育施設職員、地域のNPOなどの体験活動実施団体27名が参加しました。

初めに、主任講師からNEALインストラクターとリーダーの違い、インストラクターの役割について、さらに今回の研修の肝である企画と評価について、リーダーを指導する立場にある事を確認し講習がスタートしました。そして、4日間の講習の流れと1日ごとのねらいを確認しました。一日の実習の最後には、受講者同士のふりかえりを行い、講習内容の定着をはかりました。

【1日目】ねらい：学校教育と体験活動の関係を学び、受講生同士の交流を深める日

「体験活動と学校教育」について、事例や演習「光の実験」を交え学びました。学校教育活動は法律に基づいて計画され実施されていることが説明されました。また、学校での体験活動の推進が行われており、集団宿泊活動についての実践事例が紹介されました。参加者からは、「アクティブラーニングの実際が体験できてよかった」「実験や事例を取り上げて、楽しく学べました」との声がありました。夜は、講師の方も交わり懇親会を行い、日頃の活動の様子や日々感じている事などを話し合いました。



「ガイダンス」
4日間の研修の狙いを確認



「学校教育における体験活動」
アクティブラーニング「光の実験」

【2日目】ねらい：自然体験活動の指導のしかたを習得する日

「自然体験活動の指導」では、インタープリテーション（自然と人との橋渡し役）について体験活動を通し学びました。その後グループごとにプログラムを考え実施しました。大切な自然にしっかりと目を向けること、よく観察することを実際のプログラムを通して学びま

した。「自然体験活動の安全管理」では、安全が自然体験活動の可能性を高めることや安全にはここまでやれば大丈夫はなく、常に事故は起こりえると考え安全を実現できる仕組みをつくるのが大切である事を学びました。その後心肺蘇生法の実習を行いました。



「自然の中でプログラムデザイン」
デザインしたプログラムを他のグループに
体験してもらいました。



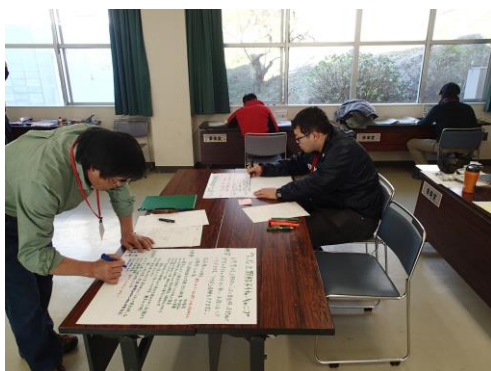
「心配蘇生法の実習」
1人1人が手順を確認しながら実習しま
した。

【3日目】ねらい：自然体験活動の指導者として一つ上のスキルを学ぶ日

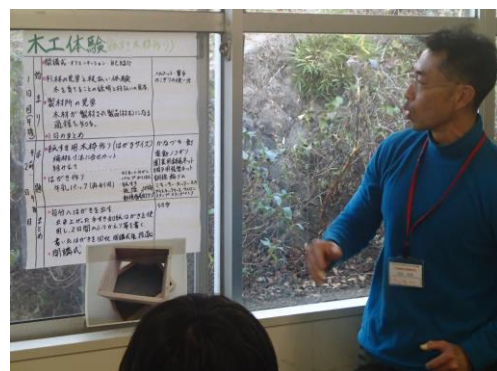
「自然体験活動の企画・運営」では、プログラムの基本構造について学び、ねらいからゴールまでのプロセスで何をどう行うかで、企画の善し悪しが決まることを学びました。やりたいことは何なのか、伝えるべき事は何かを明確にし、思いを形にするため次のテーマで企画を立てる演習を行いました。

【お題】

- ・皆さんはとある家具メーカーの社員
- ・ある日ふと思いました。「木工は環境教育になり得るのではないか」
- ・環境教育に関心のある大学生を対象にそのことを伝えることに。
「環境インストラクター養成講座」
- ・でもそのことを直接口にすることなく伝えるプログラムを作ってください。
- ・「はじまり」「本題」「まとめ」を意識した表現で。



「自然体験活動の企画」の様子
1人1人が企画をしました。



自分の企画をグループごとに発表
しました。

「自然体験活動の技術」は、最上級の火遊びをしようをテーマで行われました。講義で「野外炊事は、何のために行うの、火はライターでつけばいいのでは。マッチにこだわる自然

体験活動の指導者が多いのはなぜ。」常にどうして、なぜと考えることが野外活動の質を上げ、そこに指導者なりの答えを持っていることが大切であるとの話がありました。実習では、まず薪拾いからはじまり火越こしをしました。その火を使い野外炊事では、群馬名物お切り込みうどんを作りました。



「薪拾いからの火越こし」



「キリン型のペレットストーブ」

【4日目】ねらい：自然体験活動の指導者として一つ上の学びを活かし踏み出す日

対象者理解とは、「人として理解することであり、起きている現象にとらわれるのではなく、なぜその問題が起きているのか、子どもは何に困っているのかに視点を向ける必要がある。」そのために心理学の理論や考え方を学ぶと手詰まりになりにくい事を、多くの事例を交えて講義いただきました。



「対象者理解」



「講習のまとめ」

テーマ 相手を知ることからはじめよう

講習の最後には、4日間を通してふりかえる時間を設け、各自がNEALインストラクターとしての一步を踏み出す決意を新たにしました。

実施後のアンケートでは、「講義・講師が充実し、受講者の経験も豊かで大変勉強になり、刺激を受けました。」「ねらいと流れを意識したプログラムづくりを体験できて良かったです。」「原体験を子どもたちをはじめとした参加者に多く経験させるためのヒントをもらえた。」とのご意見をいただきました。

(文責・新井)